

みよちゃん

社協だより

100

令和6年3月11日発行
御代田町社会福祉協議会

広報「みよちゃん」は、あなたの共同募金で発行されています。



社協だよりは、名前を変えながら今回で100号を迎えました。町内の地区社協発足以来、様々な活動の様子などをお伝えしてきました。

今号の1面はこれまで表紙を飾った写真で、2、3面は歴史を振り返った特集となっています。

時代は移り変わり、新たな課題もいろいろ上りますが、職員一同、地域福祉と町民相互の「絆」を大切に活動していく所存ですので、今後とも御代田町社会福祉協議会と、広報「みよちゃん」を、宜しくお願い申し上げます。

広報「みよちゃん」と御代田町社協の歩み



「ふくしみよた」創刊号



「福祉みよた」3号



「福祉みよた」7号



「福祉みよた」20号

昭和三十七年	全社協「社会福祉協議会基本要項」の策定
昭和四十四年	社会福祉法人御代田町社会福祉協議会設立・町からホームヘルパー事業を受託
昭和四十九年	社協事務所が役場内から御代田町福祉センターに移転
昭和五〇年	第一回御代田町社会福祉大会開催
昭和五十七年	ひとり暮らしの高齢者を対象とした給食サービスの開始
昭和五十八年	市町村社協法制化（社会福祉事業法に市町村社協が規定された）
昭和五十九年	寝たきり老人&身障者世帯を対象とした入浴サービスの開始
昭和六〇年	社協報「ふくしみよた」第一号発行
昭和六十二年	洗濯サービス開始・第一回ふれあい広場開催
平成元年	地区社協が御代田町内十七地区で設立・福祉委員の設置
平成二年	一月 昭和天皇崩御 元号改定
平成三年	町からデイサービス事業の委託を受け開始
平成四年	御代田町福祉懇談会 開始
平成六年	ボランティア連絡協議会結成・希望の旅事業・小中学生ボランティア体験教室開始
平成七年	ふれあい いきいきサロンの提唱（身近な地域での交流の場作りを推進）
平成十年	一月 阪神淡路大震災（ボランティア元年と呼ばれるようになる）
平成十一年	御代田町地域福祉センター移転、通称（ハートピアみよた）に決定
平成十二年	社協報「福祉みよた」第七号よりデザイン変更
平成十三年	御代田町社協介護サービス利用者家族会発足・安心コール事業開始
平成十四年	御代田中学校による難民チャリティコンサート開催
平成十五年	ハートピアみよた開設一周年記念もみじ祭り開催
	介護保険法施行
	宅老所「きくちゃん家」開所
	宅老所「のぞみが丘」開所
	一人親家庭の集い事業実施・宅配サービス開始・家族サポート事業開始



中学校難民チャリティコンサート



小中学生ボランティア体験教室



身体障がい者スポーツ大会



「みよちゃん」90号



「みよちゃん」70号



「みよちゃん」63号



「みよちゃん」55号



「みよちゃん」40号

令和六年	令和五年	令和四年	令和三年	令和二年	平成三〇年	平成二九年	平成二八年	平成二七年	平成二六年	平成二五年	平成二四年	平成二三年	平成二二年	平成二一年	平成二十年	平成十九年	平成十八年	平成十七年	平成十六年
元旦 能登半島地震・三月 広報「みよちゃん」百号発行	「女性つながりサポート」事業で阿川佐和子さん講演会開催 五年ぶりの「やまゆり祭」開催・宅老所「たつちゃん家」閉所	二年ぶりに「サマーチャレンジボランティア」開催 宅老所「きくちゃん家」休止	「総合相談事業」「御代田町ボランティア地域活動センター事業」を委託 「女性つながりサポート」事業 町から委託を受け開始	「総合相談事業」「御代田町ボランティア地域活動センター事業」を委託 「女性つながりサポート」事業 町から委託を受け開始 二年ぶりに「サマーチャレンジボランティア」開催 宅老所「きくちゃん家」休止	三月 平成天皇退位 元号改定 「フードバンクみよた」事業立ち上げ	第三回全国ボランティアフォーラム分科会①「地域の居場所」御代田町社協で担当 宅老所「のぞみが丘」閉所・地域の縁側「あさひ」閉所 三月 平成天皇退位 元号改定	四月 熊本地震 生活困窮者自立支援法施行	九月 御岳山噴火（希望の旅事業 御岳村で遭遇） 「グループホームきくちゃん家」開所 ボランティア連絡協議会報「とうもろこし」を広報「みよちゃん」に合併	「グループホームきくちゃん家」開所 ボランティア連絡協議会報「とうもろこし」を広報「みよちゃん」に合併 九月 御岳山噴火（希望の旅事業 御岳村で遭遇） 生活困窮者自立支援法施行	「グループホームきくちゃん家」開所 ボランティア連絡協議会報「とうもろこし」を広報「みよちゃん」に合併 九月 御岳山噴火（希望の旅事業 御岳村で遭遇） 生活困窮者自立支援法施行	「グループホームきくちゃん家」開所 ボランティア連絡協議会報「とうもろこし」を広報「みよちゃん」に合併 九月 御岳山噴火（希望の旅事業 御岳村で遭遇） 生活困窮者自立支援法施行	「グループホームきくちゃん家」開所 ボランティア連絡協議会報「とうもろこし」を広報「みよちゃん」に合併 九月 御岳山噴火（希望の旅事業 御岳村で遭遇） 生活困窮者自立支援法施行	「グループホームきくちゃん家」開所 ボランティア連絡協議会報「とうもろこし」を広報「みよちゃん」に合併 九月 御岳山噴火（希望の旅事業 御岳村で遭遇） 生活困窮者自立支援法施行	「グループホームきくちゃん家」開所 ボランティア連絡協議会報「とうもろこし」を広報「みよちゃん」に合併 九月 御岳山噴火（希望の旅事業 御岳村で遭遇） 生活困窮者自立支援法施行	「グループホームきくちゃん家」開所 ボランティア連絡協議会報「とうもろこし」を広報「みよちゃん」に合併 九月 御岳山噴火（希望の旅事業 御岳村で遭遇） 生活困窮者自立支援法施行	「グループホームきくちゃん家」開所 ボランティア連絡協議会報「とうもろこし」を広報「みよちゃん」に合併 九月 御岳山噴火（希望の旅事業 御岳村で遭遇） 生活困窮者自立支援法施行	「グループホームきくちゃん家」開所 ボランティア連絡協議会報「とうもろこし」を広報「みよちゃん」に合併 九月 御岳山噴火（希望の旅事業 御岳村で遭遇） 生活困窮者自立支援法施行	「グループホームきくちゃん家」開所 ボランティア連絡協議会報「とうもろこし」を広報「みよちゃん」に合併 九月 御岳山噴火（希望の旅事業 御岳村で遭遇） 生活困窮者自立支援法施行	「グループホームきくちゃん家」開所 ボランティア連絡協議会報「とうもろこし」を広報「みよちゃん」に合併 九月 御岳山噴火（希望の旅事業 御岳村で遭遇） 生活困窮者自立支援法施行



「ふれあい広場」にて



老人クラブ芸能大会



龍神の杜公園にバルーンを呼ぶ

令和五年十一月二十五日

第四十五回 御代田町社会福祉大会

大会テーマ 「人と人とがつながり支え合う地域づくり」

講演 中島幸則 氏

なかしまゆきのり

演題 障がいがあるなしに

関わらず、みんなが

輝ける社会に

～二〇二五デフリン

ピックに向けて～



今回の大会では、福祉活動にご尽力いただいた方の表彰のあと、中島幸則先生をお迎えし、聴覚障害についての講演をしていただきました。

〈アンケートより〉

・地域のサロンで早速話し、実行してみます。
わかりやすく、理解しやすい内容でした。

・障害をなくす方法ではなく、そのままで暮らせる世の中にしたいです。（七三歳女性）

・聴覚障がい者のことを何もわからずにいたけれど、先生のお話を聞いて少し理解できた気がします。デフリンピックについても知ら

なかったけれど、知れてよかったです。気のつまった話だけではなく、途中で体を動かしたり、ゲームなどもよかったです。

身内で祖父が補聴器が嫌がる理由と、付けた方がいい理由もわかってとても参考になりました。（四〇歳男性）



TOKYO 2025
25TH SUMMER DEAFLYMPICS

謝辞



講演は
ゲームを交えて



アピール文朗読



受賞者の皆様、
おめでとう
ございます



大会アピール文

人口減少・少子高齢化の進行と三年以上に及びコロナ禍の影響に昨今の物価高騰が加わり、私たちが暮らす地域では、社会的孤立や生活困窮の課題が深刻化しています。また、これらの課題を背景とした「八〇五〇問題」や「ヤングケアラー」などの地域生活課題も顕在化しています。

国が推進している「地域共生社会の実現」や「誰一人取り残さない社会」というSDGsの理念とも重なり、ポストコロナ社会における地域づくりに向けた新たな取り組みが求められており、私たちは今まで大切にしてきた住民主体による支え合い活動、ボランティア活動及び地域活動の歩みをとめず、一人ひとりの生活の場面においても楽しみや生きがいを高めていくことが、今後の持続可能な地域づくりにつながると考えています。

第四十五回御代田町社会福祉大会に集う私たちは「地域共生社会の実現」に向けて、あらゆる方々と連携しながら次に掲げる活動に取り組んでいきましょう。

一、地域共生社会の理念の浸透を図り、福祉教育を推進していきましょう！私たちの地域には、高齢者・こども・障がい者・外国籍住民など、多様な人々が生活しています。福祉を身近なものとして考える機会をつくり、誰もが役割をもって支え合うことができるきっかけづくりや環境整備に取り組んでいきましょう。

二、包括的な相談体制の構築に向け、連携と創意工夫に取り組ましましょう！高齢者・こども・障がい者・外国籍住民生活困窮者など、各福祉分野にまたがる複合的な課題に対応するため、福祉関係者の連携を強化するとともに、保健・医療をはじめ、教育や就労など、多様な分野に連携を広げていきましょう。

三、安心して子育てができるための環境づくりを推進していきましょう！子育て世帯が孤立することなく、安心して子育てや生活ができる環境や地域づくりをめざし、行政と住民がそれぞれの役割を担い、協働して取り組みましょう。

第32回 御代田町ボランティア 地域活動の集い

今年の『御代田町ボランティア地域活動の集い』が二月四日「エコールみよた」で開催されました。前の晩から雪が降り、当日は寒くて足元が悪い中、多くの方に参加していただきました。

開会に先立ち、会場全体で能登半島地震の被災地へ黙とうを捧げました。御代田町ボランティア地域活動連絡協議会会長上原京子氏による挨拶のあと、被災地に想いを寄せて「花は咲く」を歌いました。

会の前半はボランティアグループの安心コール「たっしや会」、「Unanimous MIYOTA (ユナニマスミヨタ)」、「幸せぶくろ」の三団体よりボランティア地域活動報告がありました。報告を見た方から「町内で様な活動をしている方がいらっしやることを知りました。」などと言っていたいただきました。後半は「ぼけますから、よろしくお願いします」がおかえりお母さん」を上映。ところどころ笑いがおきたり、「そうだよねえ」「うんうん。」など共感の声があったり、すすり泣く声が聞こえてきたり：上映が終わると「映画とてもよかったね。」「涙が止まらなかったよ。」と話す声。「感動と元気をもらいました。」「自分の老後の暮らし方を考えるきっかけになりました。」「認知症の流れがよくわかった。なんの心配もなくぼけますからよろしくと言えたらどんなに幸せだろうな。」とたくさん感想をいただきました。



発表団体紹介

安心コール「たっしや会」

電話で一人暮らしのお年寄りの安否を確認しています。ある利用者の方が「必要な用事があるときは自分から連絡するし家族からもかかってくるが、何もなときは誰とも喋らない」と仰っていました。些細な会話が一人暮らしをされているとうれしく感じていただけるようです。お互いの顔を知らなくても回数を重ねるうちに信頼関係ができあがり、三〇分ほど話して電話を切る頃には「じゃああんたも元気でね」なんて言っていただくとこちらが嬉しくなります。地味ながら、ダイレクトに手ごたえがあるボランティア活動をしています。



御代田町ボランティア地域活動連絡協議会とは

ボランティア活動を進める各団体・個人が互いに連絡調整を取り合い、ボランティア活動を通じて社会福祉の向上を図るとともに、『誰もが安心して暮らしやすい地域づくり』を推進する事を目的として活動しています。

この協議会に所属しているボランティア団体の紹介冊子『ボラミちゃん』を作成しました。興味がある方は、御代田町社会福祉協議会までお問い合わせください。

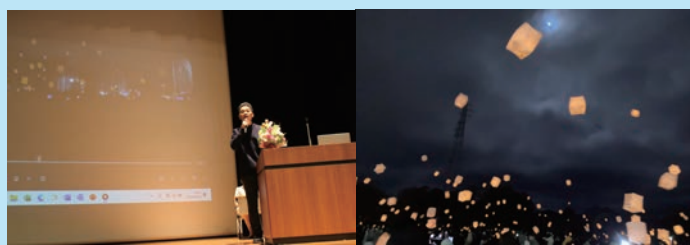
幸せぶくろ

年齢や性別を問わず、一人ひとりの想いややりたい事を大切にイベントや活動を行っています。特に一人ひとりの悩みや病気、仕事、貧困など様々な問題を吐露できる心の置き場を大切にしています。サークルの代表者が難病患者ということもあり、自身も精神的にメンバーに支えられておりますが、力が足りない部分は地域の団体や企業のお力をお借りしています。開催した「もったいない市」では子供たちが自分で楽しい事を考え、お店の切り盛りをしていました。



Unanimous MIYOTA (ユナニマスミヨタ)

御代田町の発展と皆さまを元気づける事業を行う有志の会です。地域サポート応援事業の活用とユナニマスミヨタの事業に賛同してくださった方々の寄付金により、「みよた花火」を打ち上げました。ユナニマスミヨタの由来は？ユナニマス unanimous の un は united や union で「ひとつ」という意味。そこから「心をひとつに」という意味を込めてこの名前にしたそうです。



赤い羽根共同募金配分金事業

介護されている方や介護を経験された方が
気軽に集える場所

オレンジカフェ

新年を迎えて初めてのオレンジカフェが開催されました。今回はチェロ奏者の蒼井大地さんによる演奏会。たくさんの方に参加していただき、チェロの素敵な音色に心が和み癒されました。アンコールでは自作曲の「サンライン」と「楓」を演奏していただきました。「参加して良かったです。」とのお声をいただき、嬉しい限りです。御代田町のオレンジカフェは、町内外の方を問わず少しでも情報交換ができる場になればと思います。次回は、3月に開催予定です。是非、お気軽に「オレンジカフェ」に足を運んでみてください。お待ちしております。



第26回

御代田町シニアクラブ芸能大会

2月23日(金・祝)エコールみよた「あつもりホール」にて、第26回御代田町シニアクラブ芸能大会が開催されました。各地区11団体の芸能発表とボランティアグループ「ベルハート」、御代田中学校「吹奏楽部」の皆さんから発表をいただきました。



令和 5 年度赤い羽根共同募金実績報告

戸別募金	2,689 件	1,415,936 円
個人大口	334 件	886,500 円
法人大口	150 件	496,000 円
学校募金	3 件	8,614 円
職域募金	20 件	70,864 円
イベント募金	3 件	5,863 円
その他募金	6 件	182,678 円

合 計 3,066,455 円

本年度も皆様のご協力に感謝いたします。町内の地域福祉活動や、ボランティアグループを推進する財源となります。ありがとうございました。

令和 5 年度社協会費実績報告

一般会員	3,221 世帯
賛助会員	181 世帯
団体会員	2 世帯
特別会員	6 世帯
その他会員	5 世帯

合 計 3,415 世帯 3,837,400 円

上記のうち 3,564,720 円（約 93%）を各地区社協活動費として助成いたしました。皆様から戴きました社協会費は、それぞれの地区における福祉活動を推進する財源となります。ありがとうございました。

寄付御礼

令和 5 年 11 月から令和 6 年 2 月まで

◇ 佐久浅間農協御代田支所 様	4,478 円
◇ ななかまど 様	11,000 円
◇ 鈴木千代子 様	30,000 円
◇ 佐藤 様	13,403 円

皆様のご厚情に感謝いたします。

12 月 21 日 御代田中学校生徒会様より
血圧計 3 台（上腕式 2 台、手首式 1 台）
を戴きました。「グループホームみよた」
で、大切に使用させていただきます。



社協だより みよちゃん No.100



発行日：令和 6 年 3 月 11 日
発行者：社会福祉法人御代田町社会福祉協議会
住 所：御代田町大字御代田 1772 番地 1
ハートピアみよた
TEL : 0267-32-1100
FAX : 0267-32-1111
WEB : <https://miyota-shakyo.sakura.ne.jp/>

編集後記

おかげさまで本誌は今号で第百号を迎えました。一九八五年の創刊号から足かけ三九年かかりました。これもひとえに地域の皆様のご支援の賜です。心から御礼を申し上げます。

第五号からみんなに愛されるよう「みよちゃん」にデザインを変更させていただき、親しみを感じていただけるようになりました。これからも身近にある福祉活動や福祉サービスなど、さまざまな福祉情報を皆様に提供していきたいと思えます。これからも「みよちゃん」を宜しく願ひ致します。

【三三〇】

ボランティア便り

とうもろこし

発行 御代田町ボランティア地域活動連絡協議会

No.84



再開したサロン『回原むぐろの会』

二十余り続けてきた「ふれあいサロンどんぐりの会」も、思いがけない新型コロナウイルスの大流行に伴い、令和二年四月から令和四年五月まで休止となりました。この間に私が前会長から引き継いだ時期もありました。再開するにあたっては、役員さんをはじめ区長さんとも何度も話し合いを続け、ようやく令和四年六月から二年ぶりに始まりました。

マスクの着用、消毒、換気を徹底し、以前から続けていた昼食の提供は中止し、持ち帰り弁当に変えての出発でした。

初日は、とてもにぎやかでした。集まった皆さん口々に「会いたかったよ」「元気だった。」等々の会話が弾みました。つくづく楽しみに待っていてくれたんだなあと、とてもうれしく思いました。

体操・歌・ゲーム・俳句会などを交えて楽しく交流しています。毎月の十五日にいつもの皆さんの笑顔に会えることが何よりだと感じています。

柳澤 福美



忘れてはいけな歴史の旅

令和五年度の御代田町ボラ連の研修バス旅行として、町のバスを使わせていただいていた十月十二日総勢十九名で歴史の旅に行ってきました。

信州は広いもので、東のはずれの御代田町から

南は好天に恵まれ道も空いていて、予定より早い到着でした。昼神温泉到着後、まず、日帰り温泉施設「湯ったりーな」で昼食。それから阿智村の満蒙開拓平和祈念館に移動。満蒙開拓平和記念館では寺沢館長さんが不在で、三沢亜紀事務局長さんの説明を受けました。

一九三二年から一九四〇年ごろまで農業開拓移民団員を全国各地から三十二万余名、長野県からは三万二千余名を送り出したと云われています。

（現）御代田町の中からも農業開拓移民や青少年義勇隊として合わせて百二名の方が満州に渡り、帰還者が七十四名、未帰還者が三十四名いたと云

われています。（正確な数字は不明です。）

開拓民の想像を絶する苦痛と辛さは、時代を超えて二度と繰り返してはいけな悲しい真実でありました。太平洋戦争の終結後七十八年間平和が続いた日本では、戦争体験者が高齢のため毎年減少の一途であり、お話を聞くことすらできななりつつあります。修学旅行の生徒さんたち若者だけでなく、戦後生まれのどなたにも観に来ていただきたい資料館だと思いました。

沼田 清

